

坂元 一哉
法学研究科・教授

[研究]

サンフランシスコ平和条約(1951年)を中心にして、日華平和条約(1952年)、日ソ共同宣言(1956年)、日中共同声明(1972年)など、日本が第二次世界大戦の戦後処理を行った条約、共同声明の成立過程を近年公開されてきた内外の外交文書などをもとに再検討し、日本にとって第二次世界大戦はどのように終わったかを、あらためて整理する研究を行っている。軸となるテーマは、戦争責任、領土変更、賠償、戦争犯罪の処罰、戦争の記憶(歴史問題)などである。平成28年度は研究の成果の一部を日本国際政治学会において報告した(報告およびペーパーのタイトルは「戦後日本と『帝国』再生の条件——憲法、平和条約、安保条約」)

[教育]

とくに貢献があったかどうかは別にして、例年通り、学部、大学院での講義および演習を担当した。学部の講義授業については期末試験だけでなく、レポート提出を合わせて成績を評価する(提出されたレポートは評点とコメントをつけて学生に返却)ことになっているが、平成28年度もその方針を続けた。

[管理運営]

全学共通教育委員会委員を務めた。

法学教官会の幹事として、積立金の管理、慶弔などの儀礼、歓送迎会の企画・実行を担当した。

[社会貢献]

産経新聞において定期的にコラム(「世界のかたち、日本のかたち」)を執筆した。